を知る楽しみを味わうことができた．

自らの足と眼でたしかめられ，以下の目次のように編集された著者の『日本人の心や生活を伝える伝承地を伝えてゆく』気迫に敬意を表したい．

日本神話の世界へ
　神統譜―日本神話のはじまり
　伊邪那岐命，伊邪那美命と黄泉の国
　月読命
　猿田彦
　素戔嗚尊と蘇民将来
　神功皇后と武内宿禰
　隠岐
　安曇野
昔話・説話と信仰
　浦島太郎
　鬼伝説
　天狗
　鬼門と猿
　招き猫
　阿倍晴明
　蒙古襲来（元寇）
　孔子
　鶴姫悲話
古代人の息吹をさぐる
　土偶
　石の遺物
　西南諸島

（渡部　幹夫）

［勉誠出版，〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10-2，TEL. 03（5215）9021，2014年8月，菊版，512頁，4,800円＋税］

古西義麿 著
『緒方郁蔵伝――幕末蘭学者の生涯――』

緒方郁蔵の生誕二百年記念として，橋本まちかど博物館長・除痘館記念資料室専門委員の古西義麿さんが出版された本書を紹介する．緒方郁蔵は文化十一年（1814）生まれ，明治四年（1871）没の幕末の蘭学者である．適塾に学び緒方洪庵の協力者として多くの医書の翻訳をなした．郁蔵は大戸の姓なるも洪庵の義弟となり緒方を名乗り，独笑軒塾を開き，北の緒方（適塾），南の緒方（独笑軒塾）と称されたこともあるという．こよなく酒と読書を愛し，西洋医学書の翻訳を多数行った郁蔵が独笑軒塾を開き，塾生に飲酒を禁じた頃の幕末の蘭方医の仕事として残されたものと，その生涯をまとめられた本である．郁蔵は安政元年（1854）にプーチャチンがヂヤナ号にて天保山へ来泊したときには洪庵とともに通訳を務めたという．除痘館にて種痘を広め，土佐藩に招かれるなどの経歴を持ち明治を迎えている．その後大阪医学校での教育にも従事している．大阪医学校に就任したオランダ医官エルメレンスの就任演説が郁蔵により『開校説』として和訳された全文が資料として本書に収録されている．江戸末期に医学の修行として蘭学を学んだ者の多くは個性が相当に強い方々であったと考えるが，適塾の三蔵の一人として名の残る郁蔵が，緒方竹虎，緒方貞子につながる家系の祖に当たることを識り，郁蔵研究を集成された著者に感謝する．章立てを紹介する．

第1章　生い立ち―誕生から適塾入門まで―
第2章　独笑軒塾の開塾とその展開
第3章　土佐藩の医学・洋学研究と緒方郁蔵
第4章　大阪医学校時代
第5章　資料

加えて本書には著者の作成された詳細な緒方郁蔵年譜，豊富な参考文献があげられており，この時代を研究するものにとり先行研究を知る大きな手がかりになると考える．

（渡部　幹夫）

［思文閣出版，〒605-0089 京都市東山区元町355，TEL. 075（751）1781，2014年11月，A5判，186頁，2,500円＋税］

藤倉一郎 著
『血圧測定の父――ニコライ・コロトコフ』

血圧測定は医療や保健の現場で日常的に頻回に行われている．カフ・加圧器・圧力計よりなる血圧計と聴診器により簡単に行われ，循環生理状態が容易に把握されるようになっているが，その歴史は必ずしも古いものではないことを認識させられる本が出版された．

日本医史学雑誌　第50巻第3号（2004年）に『ニコライ・コロトコフ―聴診による血圧測定の発見』を寄せた著者が本をまとめられた．アジアとヨーロッパの戦争の時代を軍医として戦場にあることの多かったコロトコフが，聴診器による血圧測定の可能性と戦陣医学の中で其の価値を発見した歴史を丹念に紹介している．Nikolai S. Korotkoff（1874～1920 ロシア）の日本語で読める伝記として章立てを含めて紹介する．

1. 血圧測定はどのようにされてきたか
2. ニコライ・コロトコフの聴診による血圧測定の発見
3. 医師になるまで
4. ロシアを巡る国際状況
5. ロシア国内の反乱と革命
6. 北清事変と日露戦争へのコロトコフの従軍
7. コロトコフ音の発見
8. ペテルブルグ陸軍病院における研究
9. 悲運の日々
10. 幸福のひととき
11. 戦争と革命の中で
12. 血圧測定の普及とその後
13. おわりに

血圧のトランスジューサーによる直接測定がされるようになり循環生理学の進歩は，コロトコフ音の各相の聴き分けの意味などを医家に要求しない時代になってきた．コロトコフの名前もそれほど医療者の口に上らないようになってきている．しかしロシアの志願軍医として，義和団の乱，日露戦争，第一次世界大戦に従軍し，四肢の切断手術の適応を考える中で血圧測定の実際を確立したロシアの外科医のことは記憶されて続けられてしかるべきことだと考える．

戦争に明け暮れた20世紀前半のロシアにおいてその歴史に一志願軍医として働き，肺結核に冒され死す，幸せとはいえなかったコロトコフの生涯を知ることができたことは，診療室で血圧測定を患者とのコミュニケーションの手段として，患者の幸せのために測定している者にとり感謝すべき発見にかかわる本であると考えます．

（渡部　幹夫）

［近代文藝社，〒112-0015 東京都文京区目白台2-15-2，TEL. 03（5395）0869，2013年11月，四六判，114頁，1,000円＋税］